

男ひとり 生きる道

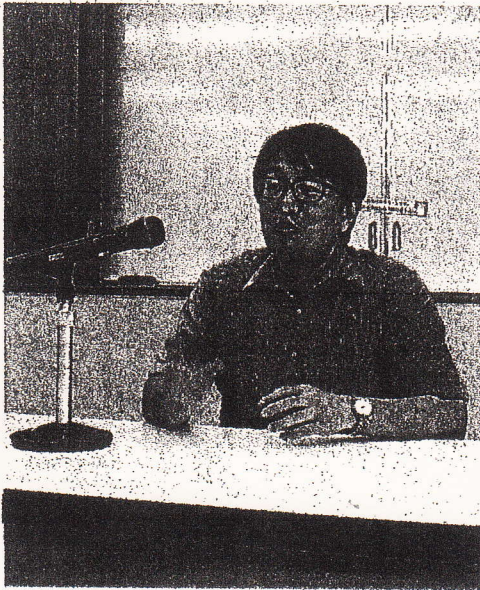
河内長野で独身対象の連続講座

「郵便物、たとえ請求書でもうれしい」

河内長野市が独身男性を対象にした連続講座を開いている。その名もずばり「男ひとり これからどう生きる?」。年齢を問わず独身男性の孤立化を防ぐのが狙いで、9～11月に全5回を予定。専門家からは取り組みを評価する声がある一方、参加者はまだ少なく、担当者は「誰の身にも起こりうることで気軽に参加を」と呼びかけている。

「妻を亡くし、一人暮らし 郵便物が入っていたら、たどしです。時々しんどくなる。えそれが請求書でも、一人が、独立した子どもたちには じゃないと思えてうれしは書えない」「ポストに郵便」。今月6日、市民交流センター(同市昭栄町)で

第1回の講座(定員24人)が開かれ、40～70代の5人の男性が、自己紹介とともに



参加者を前に、男性特有の悩みや、その解消法を紹介する京都橋大学助教の浜田智崇さん(右)6日、河内長野市昭栄町

共感・評価の声、でも参加者少なく

に日々の暮らしで感じる思いを打ち明けた。

自らを縛る

この日のテーマは「男はつらいよー」オトコの悩みから」。講師を務めた京都橋大学助教の浜田智崇さん(41)＝臨床心理学＝は、1995年から男性対象の電話相談を受けてきた。その経験から、男性は「結果を出さなければならぬ」「弱音を吐いてはいけない」「自らを縛りがちで、思い通りにいかない」と自分の能力が足りないと思いつ込み、追い詰められるという。参加者には「縛りを緩め、結果を出せないことは誰にでもあると考えて欲しい」と呼びかけた。

講座を受けた60代の参加者は「同じような境遇の人の話を聞く機会は少ないので来て良かった。心の健康を保ちたいので、今後も参加したい」と話した。

河内長野市では1980～70年代にかけてニュータウンが次々とでき、家族連

男性の1人世帯
内閣府の2014年版男女共同参画白書によると、1980年の1人世帯は全体の19・8%を占める71万1千世帯だったが、2010年には32・4%、167万8千世帯に大幅に増えた。男性の生涯未婚率も1980年の2・6%から2000年には12・6%、10年には20・1%と急上昇している。

0年には32・4%、167万8千世帯に大幅に増えた。男性の生涯未婚率も1980年の2・6%から2000年には12・6%、10年には20・1%と急上昇している。

れらが多く入居した。子どもが独立した後は住民の高齢化とともに単身世帯も増え、市全体で80年の8%から、2010年には19%を占めるようになった。市人権推進課はこれまで、市民向けの講座で夫婦や親子間の問題、男性の子育てなど、主に「家族」をテーマにしてきた。今年1月、市の男女共同参画審議会(会長＝中村彰・元よなな男女共同参画推進センター館長)による「時代に合わせた講座を」との提言を受け、独身男性対象の講座を開くことにした。

「一人であることは悪いことではない」と推測。現実を受け止め、ここに来るだけでも意味がある」と呼びかける。

初回は5人

次回(10月20日)は「知って得する法律講座」、同月18日の「快適シンクドライトのススメ」と続け、11月1日の「オトコの婚活事情」が最終回になる。各回別々の専門家が講師を務める。無料で、市外からも参加可。企画した市人権推進課長補佐の野之上浩美さん(51)は「1回だけでも参加可能で、定員を超えてもできる限り受け付けたい」としている。申し込みは市男女共同参画センター(0721・54・0003)平日へ。(鈴木洋和)

河内長野市では1980～70年代にかけてニュータウンが次々とでき、家族連

「オトコ」の婚活事情」が最終回になる。各回別々の専門家が講師を務める。無料で、市外からも参加可。企画した市人権推進課長補佐の野之上浩美さん(51)は「1回だけでも参加可能で、定員を超えてもできる限り受け付けたい」としている。申し込みは市男女共同参画センター(0721・54・0003)平日へ。(鈴木洋和)